

新幹線初の重大インシデント発生！

新幹線台車枠に亀裂

のぞみ34号が異音や、異臭により名古屋駅で運休となった事故で、鋼製の台車枠に亀裂が見つかり、運輸安全委員会から新幹線初の「重大インシデント」と認定されました。この重大さは、未だに名古屋駅から当該編成（K5）を移動させられないことからもうかがえます。

台車の亀裂が原因とされる脱線が私鉄で発生していますが、時速285kmで走る台車に亀裂が生じたのは深刻で、一步間違えれば高速走行中の脱線・転覆という事態を引き起こしかねない事態です。

ところで報道等によれば「小倉駅出発車後には焦げたような臭いを乗務員が確認し、福山・岡山駅間で13号車車内にはもやがかかっていた。岡山から車両保守担当社員を添乗させて運転し、『モーターがうる音』を確認したが走行に支障なしと判断した」といいます。なぜ3時間も走行させたのでしょうか。

過去にも歯車箱破損事故が多発し、今年1月にはのぞみ31号で歯車箱の破損事故が発生しています。私たちは、その都度検査周期延伸に疑問を呈してきました。会社は安全上問題ないといいますが、今度は台車枠に亀裂が生じたのです。このような実態にもかかわらず、会社はさらなる新幹線電車の全般・台車検査周期延伸に向けて、テストカーによる走行試験を実施しています。

全般・台車検査周期延伸をにらんだ走行試験は中止するべきです。

JR東海労は徹底した原因究明と安全議論を求めます。

それでも検査周期延伸か！